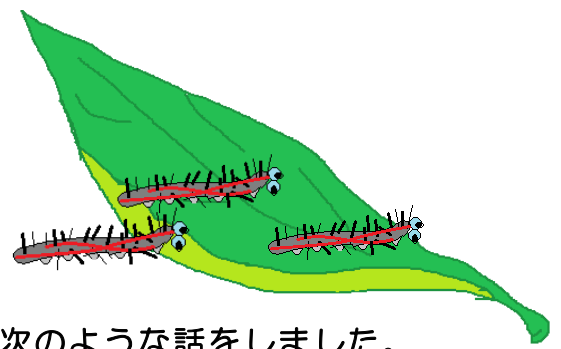


命いのち…の話（とべないちょうちよ）



9月第1回の月曜朝会。命の教育月間の一環として、次のような話をしました。

趣味で、野草のすみれを鉢植えにして育てています。たくさんの種類があって毎年次の年の花を楽しみにしています。

ところが、4、5年前、スミレを食草（蝶は、幼虫の時期に食べる葉の種類が決まっている）にしているツマグロヒョウモンという蝶の幼虫がつき、むしゃむしゃと葉っぱを片っ端から食べ丸坊主にしてしまいます。でも、せっかくだから何とか育てて無事に蝶にしてあげたいと思いました。

ところが、家にあったスミレはすぐに食べ尽くされて丸坊主になり、スミレの葉っぱを探して狭い庭ですが庭中を歩き回ります。全部入れると150匹くらいはいたようです。

この、幼虫たちのすごい食欲に答えようと、近所の野原や道端を散々苦労して探しまわり、てんてこ舞いの末なんとか庭にいた幼虫の食欲を満たして、たくさんの（ちょっと見ただけでも4、50匹くらいかな）さなぎが並び、やがて蝶になって飛んでいきました。スミレたちの命を分けてもらい、ちっちゃいけれどたくさんの命が育っていったのです。

同じように、この子達が大きくなると、スミレの庭にシジュウカラという小鳥がちょいちょい来るようになり、鳴き声がよく聞こえます。めずらしいな、とみていると、スミレの茂みの中に入り、幼虫をくわえて嬉しそうに飛び去り、またしばらくすると同じようにやって来て、幼虫をくわえていきます。子育ての時期、どうもシジュウカラのお母さんで、ヒナに餌としてあげているようです……。スミレの命で大きくなった幼虫が、可哀想だけど小鳥のヒナの命のもとになったのですね。

ところが、次の年もいたのです、ちっちゃな黒い幼虫が。それもたくさん……。

ひえええ、今年はすごい数。見る見るうちにスミレの葉っぱが食べられて茎だけです。幼虫が200匹いや、それ以上いたのです。庭で揺れていたいろいろなすみれの葉が、あっという間に食べられてしまい土が見えています。

（中略）

そんななか、命のかけがえのなさも感じました。

さなぎから羽化して蝶になるとき、失敗して片方の羽が縮んだままの蝶がいました。自然界だったらこの子はすぐに敵に見つかり逃げられずに死んでしまいます。脱脂綿にぬるま湯で溶いた砂糖水をたっぷり染み込ませ、口ふんというストローのような蝶の口を針のようなもので伸ばして、その先を砂糖水に触らせ自分で飲めるようにしました。この子はもうひと月近く生きています。自然界に飛んでいる蝶より長生きかもしれません。生きていれば、命さえあれば何とかその命を守ることはできます。

でも、こんな蝶がいました。さなぎから羽化しました。でも何だか様子が変わります。お腹も真っ黒で、羽も縮んだまま。小さくふるえています。でも、次の日に砂糖水をあげれば、大丈夫だろうと、そのままにしておきました。

でも……、次の日、この子はそのまま土の上に落ちて死んでいました。

こんな小さくてもちゃんと命があって、生きていさえいれば何とか助けてもあげられます。でも、死んでしまったこの子は二度と動きません。

命は亡くしてしまったら、取り戻すことはできません。ゲームのように、リセットすれば生き返る、わけではありません。それぞれの生き物にひとつの命なのです。昨日ふるえていたこの子はもう動けないのです、ふるえることもできないのです・・・・・・・・。

誰にもたった一つの「い・の・ち」。

大切ですね。

命の大切さ、かけがえのなさ、はかなさ、を子どもたちに意識させたいと思います。自分と異なるものを尊重し大切に。自分も人も大切に。情報化や、仮想空間での遊びが拡大していくなか、実感を持ってそのようなことを考える場が、極端に減ってきているように思います。でもこれは大切なこと。

大切なことが失われそうなら、そのような場を増やせばいい。そして命の大切さ自分や友だち、多くの命のかけがえの無さを体験を通して感じ取らせ、教えていけばいい。そう思って職員一同日々心を砕いています。

でも、これは学校だけではできないこと。どうかお力添えを、そして命を大切に素直な心の子どもたちを育ててまいりましょう。

どうかよろしく願いいたします。

